

I 高砂市の概要

I 高砂市の概要

1. 市制の沿革

昭和 29 年 7 月 1 日 市制施行（加古郡高砂町、同荒井村、印南郡伊保村、同曽根町の 4 町村が合併し誕生）

昭和 31 年 9 月 30 日 印南郡米田町の一部及び同阿弥陀村と合併

昭和 32 年 3 月 10 日 印南郡北浜村と合併

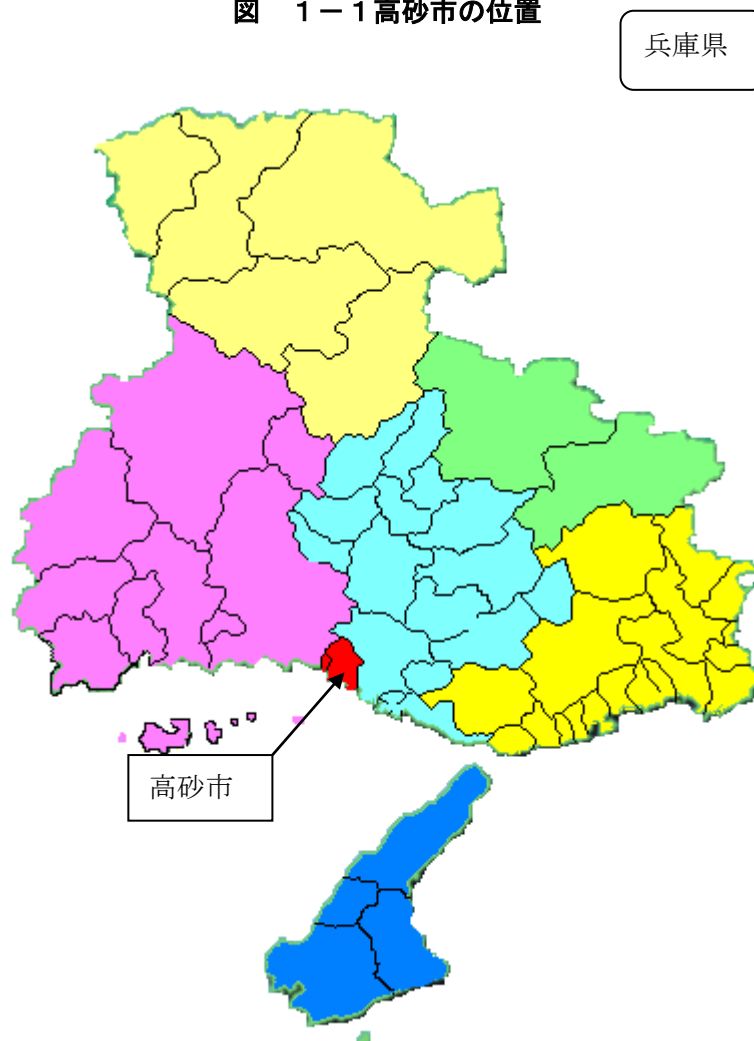
2. 位置及び地形

高砂市（以下「本市」という。）は兵庫県の中南部、播磨平野に位置し、東経 $134^{\circ}44'33''$ から $134^{\circ}49'24''$ 北緯 $34^{\circ}43'55''$ から $34^{\circ}48'57''$ の間をしめ、四極間は東西 8.00 km、南北 9.57 km であり面積は 34.38 km^2 である。

北は遠く中国山脈の支脈を仰ぎ、南は瀬戸内海播磨灘に臨んでおり、東端を加古川の清流が南北に走り、その豊かな水利は勝れた景観、肥沃な土地となって市民生活の大きな根源となっている。

また、気候は典型的な瀬戸内海型を呈し、気温は温暖で年平均 16°C 前後である。年間降水量は 1,300 mm 前後である。

図 1－1 高砂市の位置



3. 人口等の推移

令和6年10月1日現在、本市の人口は、86,578人（男42,048人、女44,530人）、世帯数は40,596である。

昭和29年の市制施行以来の人口等の推移は表1－1に示すとおりであり、令和6年度の増加率はマイナス1.1%となっている。また、地区別の人口及び面積は図1－2に示すとおりである。

表1－1 人口等の推移

（各年10月1日現在）

年次	世帯数	人口	1世帯当り 人口	人口指数 (S29=100)	人口増加率 (%)	面積 (km ²)	人口密度 (1km ² 当たり)
昭和29年	8,641	40,032	4.63	100.0	－	16.90	2,368.8
40	14,847	63,784	4.30	159.3	3.3	31.67	2,014.0
50	24,151	79,389	3.29	198.3	3.3	34.30	2,314.5
60	27,541	92,695	3.37	231.6	0.8	34.51	2,686.0
平成元年	29,037	94,579	3.26	236.3	1.1	34.51	2,740.6
10	34,286	99,422	2.90	248.4	0.0	34.40	2,890.2
11	34,536	99,097	2.87	247.5	－0.3	34.40	2,880.7
12	34,852	99,004	2.84	247.3	－0.1	34.40	2,878.0
13	35,136	98,826	2.81	246.9	－0.2	34.40	2,872.8
14	35,534	98,862	2.78	247.0	0.0	34.40	2,873.9
15	35,726	98,384	2.75	245.8	－0.5	34.40	2,860.0
16	36,029	97,878	2.72	244.5	－0.5	34.40	2,845.3
17	36,290	97,420	2.68	243.4	－0.5	34.40	2,832.0
18	36,830	97,225	2.64	242.9	－0.2	34.40	2,826.0
19	37,115	96,791	2.61	241.8	－0.4	34.40	2,813.7
20	37,710	96,803	2.57	241.8	0.0	34.40	2,814.0
21	38,126	96,893	2.54	242.0	0.09	34.40	2,816.7
22	38,330	96,300	2.51	240.6	－0.6	34.40	2,799.4
23	38,426	95,692	2.49	239.0	－0.6	34.40	2,781.7
24	38,611	95,076	2.46	237.5	－0.6	34.40	2,763.8
25	38,715	94,364	2.43	235.7	－0.7	34.40	2,743.1
26	38,911	93,927	2.41	234.6	－0.5	34.45	2,726.5
27	39,121	93,468	2.39	233.5	－0.5	34.38	2,718.7
28	39,417	93,038	2.36	232.4	－0.5	34.38	2,706.2
29	39,417	92,166	2.33	230.2	－0.9	34.38	2,680.8
30	39,427	91,394	2.31	228.3	－0.8	34.38	2,658.3
令和元年	39,568	90,661	2.29	226.5	－0.8	34.38	2,637.0
2	39,874	89,932	2.26	224.7	－0.8	34.38	2,615.8
3	39,971	89,194	2.23	222.8	－0.8	34.38	2,594.4
4	40,203	88,395	2.20	220.8	－0.9	34.38	2,571.1
5	40,394	87,578	2.17	218.8	－0.9	34.38	2,547.4
6	40,596	86,578	2.13	216.3	－1.1	34.38	2,518.3



人 口 86,578 人
 面 積 34.38 km²
 (令和6年10月1日現在)

図 1-2 地域別人口及び面積

4. 土地利用状況

本市の土地利用状況を都市計画用途地域別に大まかにみれば、臨海部の播磨工業地域の中核をなす工業及び工業専用地域、山陽電鉄各駅周辺の商業及び近隣商業地域、それ以北の住居及び住居専用地域、そして、国道2号以北の市街化調整区域に分けることができる。しかし、内陸部の住居系地域の中には準工業地域が点在し、住工混在による近隣公害問題を生じているところもある。

本市全域（34.38 ㎢）が都市計画区域に指定されており、そのうち市街化区域は 2,166ha（63.0%）、市街化調整区域は 1,272ha である。市街化区域の用途地域別の面積とその割合は表 1－2 に示すとおり、工業専用地域が 27.1%と最も多く、次いで第一種中高層住居専用地域 25.4%、第一種住居地域 11.5%の順となっている。

また、各種住居専用地域及び居住地域は市街化区域の 57.4%、準工業、工業及び工業専用の工業系地域は 38.9%であり、工業系地域の割合は他市に比べ高い値となっている。

表 1－2 用途地域別面積とその割合

（令和5年2月21日告示）

区 分		面積（ha）	構成比（%）
市街化区域	第 1 種 低 層 住 居 専 用 地 域	約 1 5 2	約 7. 0
	第 2 種 低 層 住 居 専 用 地 域	9 6	4. 4
	第 1 種 中 高 層 住 居 専 用 地 域	5 4 9	2 5. 4
	第 2 種 中 高 層 住 居 専 用 地 域	6. 9	0. 3
	第 1 種 住 居 地 域	2 5 0	1 1. 5
	第 2 種 住 居 地 域	1 3 8	6. 4
	準 住 居 地 域	5 2	2. 4
	近 隣 商 業 地 域	6 3	2. 9
	商 業 地 域	1 7	0. 8
	準 工 業 地 域	1 0 5	4. 9
	工 業 地 域	1 5 0	6. 9
	工 業 専 用 地 域	5 8 7	2 7. 1
	合 計	2, 1 6 6	1 0 0

5. 産業

本地域は、明治中期まで米麦作を中心とした農業、あるいは播州塩の生産地として、また、加古川流域の物資の集散地及び海上交通の要衝として繁栄を続けてきた。

その後は、加古川の豊富な工業用水、遠浅の海岸線、そして大阪、神戸などの大都会に近いという企業立地の好条件に恵まれ、海岸線を中心に大工場が進出するところとなった。

このような中で昭和 30 年に工場誘致条例を施行し、海岸線の埋立てによる工場用地の造成、道路及び港湾の整備などにより、電力、鉄鋼、化学、食品等の基幹産業の新增設がなされ、また、昭和 39 年には播磨工業整備特別地域の指定を受け、一躍重化学工業都市へと変ぼうし播磨臨海工業地帯の中核都市として発展してきた。

このような急速な工業化の進展により本市の産業構成は表 1－3 に示すとおり、第 2 次産業の製造業、第 3 次産業のサービス業、卸売・小売業が中心となっている。

また、本市の産業別工業の構成は、令和 4 年経済構造実態調査（製造業事業所調査）に関する統計表によると表 1－4 に示すとおりであり、事業所数でははん用機械器具 19.6%と最も多く、次いで金属製品 18.2%、窯業・土石製品 11.9%、生産用機械器具、食料品がそれぞれ 6.3%と続き、また従業者数では、はん用機械器具が 33.9%を占め、次いで生産用機械器具 20.9%、化学工業 14.7%の順となっている。一方、製造品出荷額等でもはん用機械器具が 44.5%を占め、次いで化学工業 22.9%、生産用機械器具 16.2%と続き、上位 3 業種で全体の 83.6%を占めている。

表 1－3 産業別人口構成

産業別		平成 17 年		平成 22 年				平成 27 年		令和 2 年	
		人口 人	構成比 %	人口 人	構成比 %			人口 人	構成比 %	人口 人	構成比 %
第 1 次	農業	135	0.3	149	0.4	第 1 次	農業	193	0.5	206	0.5
	林業・狩猟業	2	0.0	3	0.0		林業	2	0.0	3	0.0
	漁業・水産業	87	0.2	62	0.1		漁業	47	0.1	50	0.1
	計	224	0.5	214	0.5			242	0.6	259	0.6
第 2 次	鉱業	3	0.0	9	0.0	第 2 次	鉱業・砕石業・砂利採取業	6	0.0	11	0.0
	建設業	4,049	9.3	3,610	8.6		建設業	3,436	8.4	3,658	8.2
	製造業	11,595	26.7	11,689	27.9		製造業	11,415	27.9	11,424	25.6
	計	15,647	36.0	15,308	36.6		計	14,857	36.4	15,093	33.9
第 3 次	卸売・小売業	7,561	17.5	6,491	15.5	第 3 次	卸売・小売業	6,053	14.8	6,429	14.4
	金融・保険業・不動産業	1,086	2.5	1,297	3.1		金融・保険業・不動産業・物品賃貸業	1,263	3.1	1,202	2.7
	運輸・通信業	2,903	6.7	2,878	6.8		運輸・通信業・郵便業	2,766	6.8	2,916	6.6
	電気・ガス・水道業	314	0.7	310	0.7		電気・ガス・水道業	340	0.8	332	0.8
	サービス業	13,313	30.7	13,030	31.1		サービス業	13,325	32.6	14,883	33.3
	公務	1,500	3.5	1,271	3.0		公務	1,270	3.1	1,224	2.8
	計	26,677	61.6	25,277	60.4			25,017	61.2	26,986	60.6
	分類不能	808	1.9	1,064	2.5			744	1.8	2,162	4.9
合 計		43,356	100	41,863	100			40,860	100	44,500	100

(注) 国勢調査による。

表 1－4 産業別工業の構成

(令和 4 年 6 月 1 日現在)

産 業 分 類 (中分類)	事業所 数	構成比 (%)	従業者 数 (人)	構成比 (%)	製造品出荷額等 (万円)	構成比 (%)
食 料 品	9	6.3	719	5.0	2,212,395	2.2
飲料・たばこ・飼料	2	1.4	131	0.9	×	×
織 維 工 業	8	5.6	138	1.0	157,242	0.2
木 材 ・ 木 製 品	2	1.4	181	1.3	×	×
家 具 ・ 装 備 品	－	－	－	－	－	－
パルプ・紙・紙加工品	2	1.4	340	2.4	×	×
印 刷 ・ 同 関 連 業	3	2.1	148	1.0	243,323	0.2
化 学 工 業	7	4.9	2,109	14.7	22,841,853	22.9
石油製品・石炭製品	－	－	－	－	－	－
プラスチック製品	4	2.8	162	1.1	334,933	0.3
ゴ ム 製 品	1	0.7	16	0.1	×	×
なめし革・同製品・毛皮	－	－	－	－	－	－
窯 業 ・ 土 石 製 品	17	11.9	1,250	8.7	6,190,483	6.2
鉄 鋼 業	8	5.6	157	1.1	458,488	0.5
非 鉄 金 属	5	3.5	178	1.2	325,171	0.3
金 属 製 品	26	18.2	670	4.7	2,269,019	2.3
は ん 用 機 械 器 具	28	19.6	4,859	33.9	44,456,546	44.5
生 産 用 機 械 器 具	9	6.3	2,988	20.9	16,194,628	16.2
業 務 用 機 械 器 具	1	0.7	17	0.1	×	×
電子部品・デバイス・電子回路	－	－	－	－	－	－
電 気 機 械 器 具	3	2.1	30	0.2	55,136	0.1
情 報 通 信 機 械 器 具	－	－	－	－	－	－
輸 送 用 機 械 器 具	5	3.5	191	1.3	304,662	0.3
そ の 他	3	2.1	31	0.2	18,599	0.02
総 数	143	100	14,315	100	99,840,235	100

(注) 兵庫県ホームページ 令和 5 年経済構造実態調査（製造業事業所調査）に関する統計表より

※×印は非公表